

---

# 星

松永直三

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
星

【コード】  
N0532P

【作者名】  
松永直三

【あらすじ】  
高校生の一美とおばあちゃんのちょっとしたお話。

昔、おばあちゃんに死んだ人は、星になるんだよと教えられたことがある。小さかった私は、お星様きれいだねって無邪気に言っていた気がする。よく思い出せない。小さいころの思い出は、断片的で、散らばったまんまだ。だから、こんなことしか覚えていない。おばあちゃんとの思い出は今思い出すとこれが一番最初に出てくる  
おばあちゃんとの思い出だ。

私は、今おばあちゃんの葬式に来ている。おばあちゃんの家は私が小さかったころ（つまり、私が小学生になる前）はよく、来ていたらしい。けど、小学生になった頃、おじいちゃんが死んで、それからほとんど顔を出さなくなった  
もともと母さんとおばあちゃん（母さんから見たら義理の母）があまり、仲が良くなかったのでそのせいだと思う。  
おばあちゃんは、病院の入退院をくりかしていた。初めのうちは、母や父と見舞いに行っていた。  
そのたびに、おばあちゃんは迷惑かけるねとかわざわざ悪いよとか言って、少し照れて、けど嬉しそうにしていた。  
けど、そんな入退院がしょっちゅうだったのでいつしかだんだんお見舞いに行かなくなっていった。  
今回の入院も、母がまた入院したよとかいうのでいつものだから、お見舞いはしなくていいなと思った。  
正直、お見舞いに行くのは結構、煩わしいのだ。だから、すぐ退院するんだらうと勝手に思ってしまった。  
まして、そのまま死ぬなんて思いもしなかった。

「では、乾杯！」

おばあちゃんの火葬場にいき、灰になったおばあちゃんを見た後、親戚なんかが集まって食事をしている。

乾杯じゃないだろとか、献杯だよとか笑い声が響き合っていた。(後で、分かったのだが、こういう時は献杯と言うらしい。)

音頭を取った何回かあった事のある親戚のおじさん(あいにく、名前は覚えだせなかった。)が、罰の悪そうな顔して座った。

私は、火葬場で見た灰になったおばあちゃんをみたので、あまり食欲がわかなかつた。式場では、泣いていたおばちゃんも、沈痛な顔していた従兄弟のお兄さんもすでに酒を飲んで笑っている。あいにく、私はそんな気分にならなかつた。

けど、しみりしているよりも、笑ってたほうがおばあちゃんも喜ぶかな。

いまいち、私は場の空気に慣れなかつた。別に、おばあちゃんが死んですごく悲しいとか、そんなんじゃないけど、どうしても馬鹿騒ぎする気分にならなかつた。

私が黙って食事をしていると知らない。式場や火葬場で見なかつた。おじさんが話しかけてきた。

「一美ちゃんか。よう清美さんに似てるわ。」

そうだろうか。おばちゃんはしわくちゃだったし。

「ちよつと、忙しゅうて葬式には間に合わなんで。」

ほんとはめんどくさかつたんじゃないの。

「清美さんなんやゆうたら、一美ちゃんが、一美ちゃん言うてなあ。孫ん中で一番可愛がつてたし。死なはつて悲しいやろけど、シャン

としな。

おばあちゃん浮かばれんで。」

.....。

私は、縁側で星を見ている。まだ向こうでは、馬鹿騒ぎをやってるらしい。もうすでに、日は暮れ、星が出ている。

おばあちゃんと星を見て本当にこどもみたいな事を言っていたことものを思い出す。今、私は、色々悩みやつらいこともある。

昔の事だけど、一時期、自殺も考えてしまった時がある。あんたぐらいの時は、些細なことで悩むんだよ。って母さんが分かったようにしゃべってた。

違うんだよ。些細なことじゃないんだよ。そんなこと思ってまた誰も分かってくれないと悩んだり。

けどそれなりに楽しいし、それなりに生き生きしている。まだ星になるには早いと思ったからここにいる。

今、おばあちゃんは星になったんだ。今も星空の向こうから、私を見ているのだろうか。

ここにいるよと言って、手を挙げる。

私は初めて目頭が熱くなった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0532p/>

---

星

2010年11月21日21時13分発行